友人間の援助要請行動に及ぼす文化的自己観の効果

対人依存欲求と「迷惑をかけてはいけない」規範に注目して

○針原素子

(東京女子大学現代教養学部人間科学科)

キーワード: 援助要請、文化的自己観、迷惑

The effects of cultural self-construal on help-seeking behaviors among friends

Motoko HARIHARA

(Division of Human Sciences, Tokyo Woman's Christian University)

Key Words: help-seeking, cultural self-construal

目 的

本研究では、どのような人が友人間での援助要請を気軽に
行うのかについて検討することを目的とする。Taylor et
al. (2004)は、ストレス対処としてのソーシャルサポート利用
がアメリカ人に比べ、東アジア人で少ないことを示した。文
化的自己観の議論に沿って考えれば、他者とのつながりを重
視する東アジア人の方がソーシャルサポートを利用しやすい
とも予測できる。しかし、Taylor et al. (2004)はそれとは
反対に、東アジア人の他者との関係への懸念がソーシャルサ
ポート利用を抑制することを示した。この知見に基づけば、
相互協調的自己観を持つとされる日本人も、他者との関係へ
の懸念から援助要請を抑制すると予測できる。本研究では、
特に「迷惑をかけてはいけない」という迷惑抑止規範の効果
について検討する。Taylor et al. (2004)の研究は、多くは
韓国人、中国人の大学生サンプルの結果であったため、本研
究では日本人の一般サンプルを用い、相互協調的自己観を持
っている人ほど、迷惑抑止規範を支持し、援助要請を抑制し
ているかどうかを検討する。また、Taylor et al. (2004)で
は、文化がソーシャルサポート利用の差に及ぼす効果の媒介
変数として、他者関係への配慮を扱っていたが、本研究では
対人依存欲求も測定することで、相互協調的自己観を持って
いる人ほど、対人依存欲求が強く、援助要請を行いやすいと
いう相反する促進プロセスも存在するかどうかを検討する。

方 法

(株)ボーダーズが運営する「アンとケイト」の18歳～59
歳の登録モニター1071名にアンケートを配信し、675名から
回答を得た(男性339名、女性336名)。質問項目は以下の通
りだった。

友人に対する援助要請:「嫌なことがあった時に、友人に愚痴
を聞いてもらう」「自分一人で片づけられない仕事を、手伝っ
て欲しいと友人に頼む」「分からないことがあった場合に、友
人に教えて欲しいと頼む」「自分が持っていない物を貸して欲
しいと友人に頼む」の4項目について、「1. 自粛することが多
い」～「4. 気軽にすることが多い」の4件法で尋ね、平均値
を用いた($\alpha=.79$ 、「そもそもしたいと思わない」という選択
肢を選んだ場合は欠損値とした)。

相互独立的自己観・相互協調的自己観: 高田(2000)の相互独
立的自己観—相互協調的自己観尺度の短縮版を用い、前者は
4項目($\alpha=.70$)、後者は6項目($\alpha=.76$)の平均値を用いた。
外向性: 鈴木・山口・根建(1997)のシャイネス尺度の積極性
因子から「自分から進んで友達をつくることが多い」など3
項目の平均値($\alpha=.85$)を用いた。

対人依存欲求: 竹澤・小玉(2004)の対人依存欲求尺度から「病
気のときや、ゆううつなときには誰かに慰めてもらいたい」
「面倒な仕事は誰かに手伝ってほしい」など5項目の平均値
($\alpha=.84$)を用いた。

迷惑抑止規範:「私は日ごろ、できるだけ人に甘えないように

している」「相手に頼めたらとてもうまく事が運ぶだろうと思
うようなことがあっても、迷惑かもしれない相手に打診す
る前に自粛する」「どんな場合でも、人に迷惑をかけてはいけ
ない」の3項目の平均値($\alpha=.69$)を用いた。

結 果 と 考 察

友人に対する援助要請の平均値は2.24($SD=0.68$)であり、
全体的に自粛傾向にあることが分かった(中点からの差の検
定 $t(616)=-9.53$, $p<.001$)。

次に、援助要請を被説明変数に、個人差変数を説明変数に
した重回帰分析(表1モデルⅠ)と対人依存欲求、迷惑抑止
規範の媒介変数を加えた分析(モデルⅡ)を行った。その結
果、相互独立的自己観が強く、外向的な人ほど援助要請を行
うこと、相互協調的自己観が強い人ほど援助要請を行う効
果もあるが、これは媒介変数を同時投入すると消失すること
が分かった。そこで、対人依存欲求、迷惑抑止規範の媒介変
数に個人差変数が与える効果を分析したところ(表2)、対人
依存欲求については相互協調的自己観が、迷惑抑止規範につ
いては相互独立的自己観、相互協調的自己観が共に正の効果
を持つことが分かった。ここから、相互協調的自己観を持つ
人は、迷惑をかけてはいけないという考えから援助要請を行
わないというプロセスと共に、対人依存欲求が強く援助要請
を行うという相反するプロセスが存在し、全体としては援助
要請を行いやすいこと、相互独立的自己観が強い人は、迷惑
をかけてはいけないという考えから援助要請を自粛する傾向
もあるが、それとは独立に援助要請を行いやすい傾向が強い
ことが分かった。

表1: 友人への援助要請についての重回帰分析の結果

	モデルⅠ	モデルⅡ
相互独立的自己観	.21 ***	.21 ***
相互協調的自己観	.10 *	-.02
外向性	.19 ***	.17 ***
対人依存欲求	—	.28 ***
迷惑抑止規範	—	-.09 *
性別(男=1/女=2)	.10 **	.08 *
年齢	-.07 †	-.08 *
R^2	.14 ***	.21 ***

表2: 対人依存欲求、迷惑抑止規範に対する個人差変数の効果

	対人依存欲求	迷惑抑止規範
相互独立的自己観	.04	.27 ***
相互協調的自己観	.53 ***	.26 ***
外向性	.12 ***	-.11 **
性別(男=1/女=2)	.06 †	-.01
年齢	.04	.07 *
R^2	.33 ***	.12 ***

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$

引用文献

Taylor, S. E., Sherman, D. K., Kim, H. S., Jarcho,
J., Takagi, K., & Dunagan, M. S. (2004). Culture and
social support: Who seeks it and why? *Journal of
Personality and Social Psychology*, 87, 354-362.